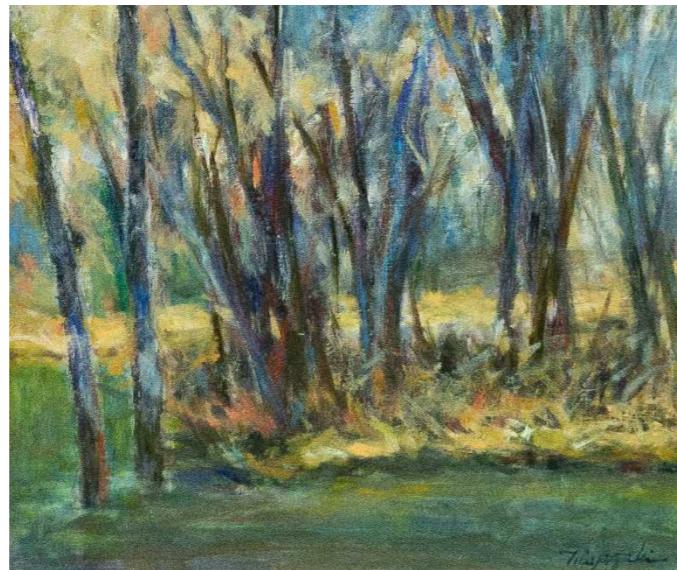


京田辺市長賞

水辺のほとり（油画）／宮崎眞喜（京田辺市）

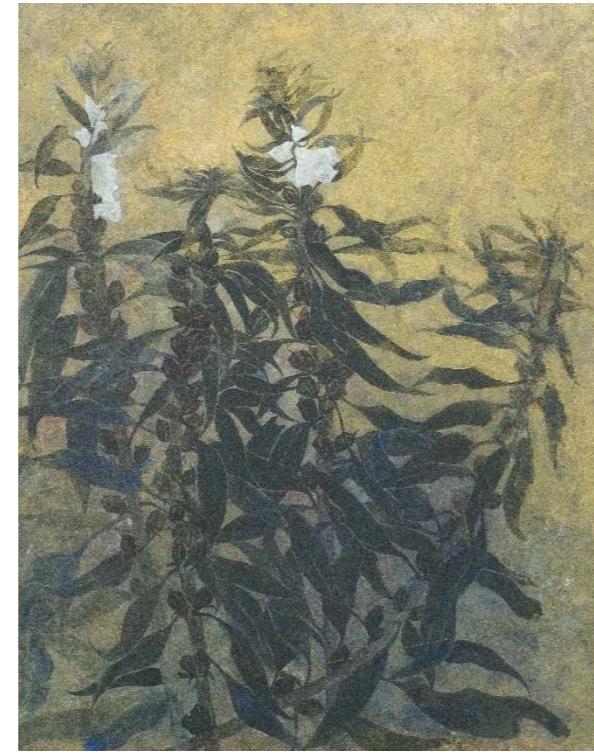
子供達に誘われて、家族旅行へ。秋の訪れを感じながら、散策しました。木々の葉が色づいている秋の水辺の風景に魅せられ、旅の1ページにと思い描いた作品です。



優秀賞

自然への祈り（日本画）／竹村恵美子（京田辺市）

家庭菜園で はじめてゴマを育だて、収かくのあと、こぼれ種が大きく育だち、夕暮時に 白い花が浮かんだように咲いていて可愛いく美しいと感動して、スケッチしました。



奨励賞

茜舞う（パステル画）／清水久義（宇治市）

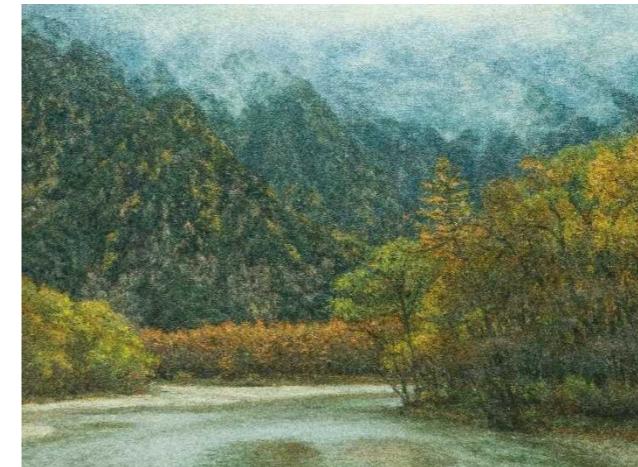
初秋の夕暮の畔道で、夕焼け空に、スキの間を赤トンボが舞うのを見て、日本の原風景を思い出し制作しました。



奨励賞

朝もやの霞沢岳（油画）／中島浩（京田辺市）

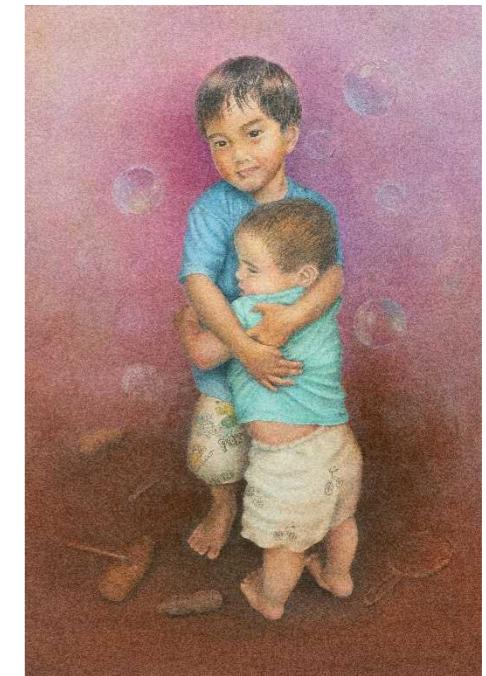
憧れの上高地。やっと休暇がとれ、初めて訪れたのは、シーズンも終わり、閉山直前の11月でした。しかも朝から小雨混じりの曇天。でも、ガイドブックでは見たことのない上高地の景色を堪能することができ、旅の良い思い出ができました。



奨励賞

いとおしい時（アクリル画）／中村江里子（精華町）

私の目の高さから孫達を見た構図です。一緒に遊んでけんかして、仲直り そんなじやれ合いを私はいとおしく見ています。すぐに成長していくであろう小さな子らの姿を記憶にとどめたくて描いた作品です。兄は弟を抱こうとしたけどなかなか重たかった状況



奨励賞

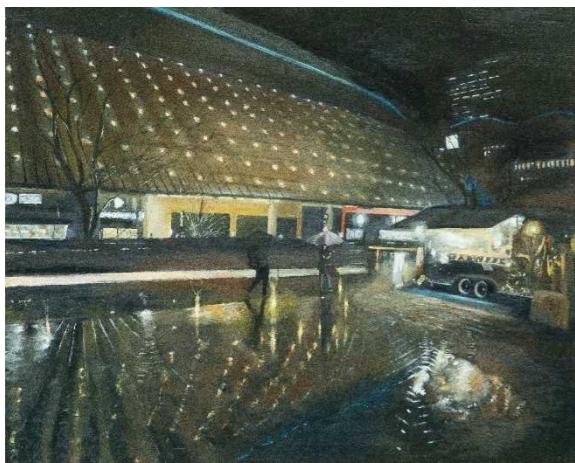
爽快なメルク郊外（油画）／
日野みどり（京田辺市）
壮大な平野のさわやかな空気感を感じて描いてみました。



U18審査員賞

最初で最後の光景（油画）／尾西亮祐（京田辺市）

一度見た光景は二度と同じ形で戻ることはない。私が愛した光景が記憶に残るように、皆さんもこの光景を記憶に残してほしい。



U18審査員賞

天使からの祝福（油画）／中山亜音（八幡市）

去年うまれたいとこを描きました。これから先、いとこが良い人生になることをねがって、描きました。色はカラフルに使い赤ちゃんのかわいさや、ポップさをだしました。



奨励賞

花香（アクリル画）／藤井文子（京田辺市）

”転生”をテーマに描き続けている作品（2025）です。春、バラの花がひらく時に放つ芳香や輝きから、生命の誕生をイメージしました。思いのままに連ねて描いたモチーフで生命の不思議を表現した心象風景です。



U18審査員賞

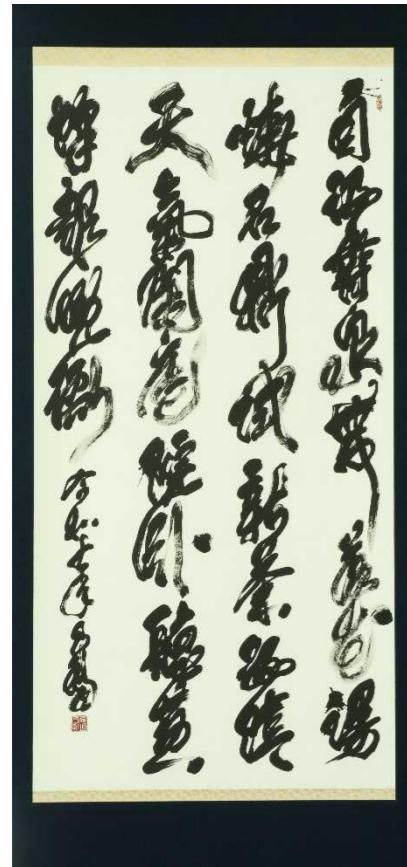
大御堂観音寺（水彩画）／
藤本愛梨（京田辺市）

木々の間を抜けると、光が差しこみ、風が吹き抜け、どっしりと構えた本堂が真正面に現れる。趣のある建物と、豊かな自然との調和が美しく、木々を潜り抜けたその時の感動や鮮やかな情景を水彩で表現したいと思い、この作品を制作しました。



講評

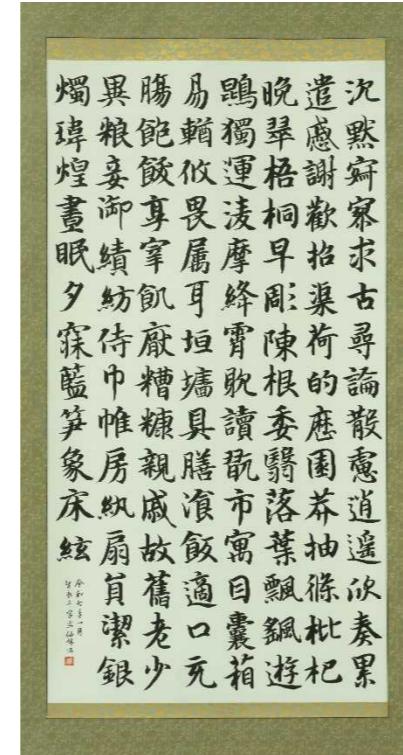
全体の点数はやや少なめではありました。しかし、良い絵が多かったと思います。そこから受賞作を絞り込むのは悩ましいことでした。絞り込みに際しては、なるべく多彩な画風を選び入れるようにしました。市長賞の作品は、筆致の勢いのうちに風景の奥行きや広がり、陽射しの温かさが表されたところに気分の良さを感じました。優秀賞は、一見モノクロームにも近い全体像の中で色々な彩りを込め、花の白と背景の金を渋めに輝かせた上手さが目を惹きました。他の奨励賞作品も、重厚な筆致だったり、細密な書き込みだったり、素朴なまでの単純化の味わいだったり、対象への愛情の深さだったり、それぞれに魅力を感じました。U18審査員賞は今回からは3点まで選んでよいとのことでしたので、3点それぞれ個性の異なった作品を受賞作とすることことができました。 審査員 梶岡秀一



京田辺市長賞

茶を嘗む／宮垣乃彩（京田辺市）

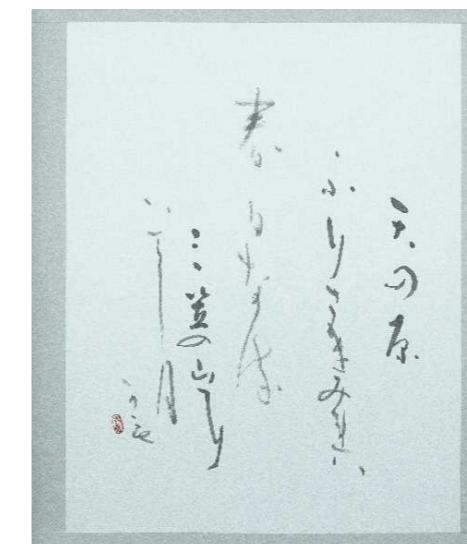
数年前から茶詩に魅了され、今作はのんびりとした境地を詠う宋の詩を書きました。茶詩に限らず、ここ暫く玉露や一休寺も制作の題材にしているため、どこか穏やかな世界に惹かれるかもしれません。久しぶりの出品となりましたが、詩意にならって落ち着いた気持ちで楽しく制作いたしました。



優秀賞

智永千字文／天野仙林（京田辺市）

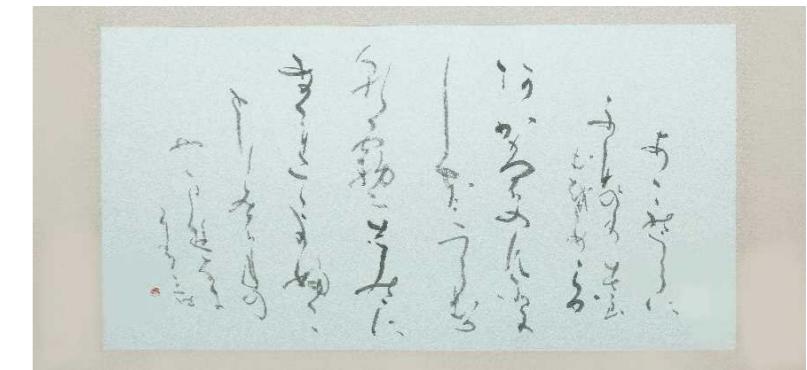
千字文を書きはじめるも、紙が大きくて扱いにくく、又、字の数が多いので、終始気を張り詰めて制作しました。



奨励賞

三船の山／梅原良代（京田辺市）

万葉集から二首選び、文字の大小、墨の濃淡、空間のバランスを大切に制作しました



奨励賞

天の原／玉井玉窗（京田辺市）

墨の濃淡、渴筆、空間を意識して制作しました。

講評

書という文化はコトバをあつかう芸術であるゆえに、一般の書き手はコトバを伝えることに重きを置く場合が多い。しかし、詩文を伝えることよりも墨の持つさまざまな表情、筆による線の厚みやかすれなど、じつに多様な姿を見せるのが書の魅力となる。

今回は本格的な行書草書作品が市長賞に選ばれたが、若々して密度ある筆触が大変好ましい。千字文を書いた優秀賞も和様の姿のある楷書でそのゆるぎのない造形は立派。かな作品2点はともにベテランの味であるが、墨色と墨量の用い方がすばらしい。今後もよい詩文をよい表現で仕上げていってもらいたい。

審査員 日比野博鳳

講評

たくさんの個性あふれる秀作を拝見し、楽しく審査を行いました。ゆったりと雅びな書きぶりの仮名作品、力強く迫力のある漢字作品や自由な表現の漢字仮名交じりの書など、多様な書作に感心しております。

市長賞の作品は、中国明清時代の書風を手に入れて、奔放な用筆と確かな造形で迫力ある表現が見事でした。又、優秀賞の作品は、丁寧に智永の書法を学んだ跡が見られ、整然とした美しさが見どころです。奨励賞の二点は、柔らかで穏やかな雅びな仮名の表現がすばらしいものでした。

このような多彩な書表現が見られる本展はとても重要です。是非とも次年度も今年にも増して多くの玉作を期待しています。

審査員 尾西正成



京田辺市長賞

神秘の環（滋賀県長浜市湖北町）／西川皖偉（京田辺市）

余呉湖の撮影会の帰り道休憩で道の駅に寄った際、ハローが出ていたのを見つけより神秘的になるようモノクロで撮影いたしました。

優秀賞

警戒（滋賀県高島市）／向平尚武（京田辺市）

9月になると姉川では産卵するために遡上するアユが集まってくる。この日は沢山のシラサギがそのアユを狙って河口に集まり、夕方の食事をしていた。すると1羽のカラスが現れたその瞬間、警戒なのか半数のシラサギが一斉に飛び立ち上空を乱舞する凄い光景が見られた。作品のタイトルも「警戒」とした。



講評

風景写真を中心に25点の作品が並びました。

市長賞を受賞された西川さんの「神秘の環」は、最初一番強烈に目に飛び込んで来ました。暗いトーンの表現の中、日輪の丸い環と太陽 その中に木陰を配し、見事な作品に仕上げ強い印象を与える作品です。

優秀賞の向平さんの「警戒」は、良くもまあこれだけのサギが集まつたものと感じました。切り取りもベテランらしくそつの無い配し方で、自然の凄さを感じました。

山本さんの「春のめざめ」 松田さんの「黎明」も良い瞬間を切り取り、表現にゆとりを感じます。選外になった作品の中にも、「歓喜のリング」「湖龍の鱗」等、もう一工夫で入選できたと思います。

全体的に昨年よりもレベルが上がり、見応えがありました。

審査員 橋本友男



奨励賞

黎明（和束町）／松田吉夫（井手町）

日の出を待って、朝日に照らされる 茶畠を撮影制作しました。



奨励賞

春のめざめ（長野県飯山市）／山本正二郎（京田辺市）

長野県北部の高原。6月上旬、残雪の残るブナ林に、新緑の芽が吹き夜明けと共に霧が流れた。清々しい春の訪れを感じ、シャッターを切った。